

# 令和4年度表彰報告

○第75回優良公民館文部科学大臣表彰

<北部協働センター>

○令和4年度優良公民館等静岡県教育長表彰

<高台協働センター>

○令和4年度子供を育む地域活動団体県教育長表彰

<NPO 法人 子育て支援の会>

# Connecting People! ~笑顔でつなぐ地域の輪~ 浜松市北部協働センター

第8回北部ジュニア公民館の様子(平成20年8月開催)



令和3年度北部デジタル協働センターまつり(協働センターまつり)



## 公民館の沿革・年表

- 昭和49年2月1日 北部公民館として開館
- 昭和51年度 優良公民館表彰受賞(静岡県)
- 昭和52年度 優良公民館表彰受賞(文部大臣)
- 昭和58年4月1日 北部公民館付設体育館開館
- 平成3年度 国際交流情報コーナー開設
- 平成13年8月 第1回北部ジュニア公民館スタート
- 平成19年4月1日 政令指定都市移行
- 平成25年4月1日 協働センター再編

## 左図・写真の説明等など(PRポイントなども可)

### ★北部ジュニア公民館

地域の中学生在が、企画から運営まで行う、地域の子供向けイベント。学校・地域(北部生涯学習ボランティアの会)・行政(協働センター)が一つになり、異世代の交流と地域コミュニティの活性化を推進することを目的として開始。昨年度、第20回目を迎えた。例年来場者は2000人を超え、地域住民に親しまれている。

### ★北部デジタル協働センターまつり(協働センターまつり)

コロナ禍での協働センターまつりの在り方を検討し、芸能発表や展示発表の一部をデジタル化したことにより、通常開催時と同様の内容で開催することができた。

1. 都道府県名	静岡県	3. 公民館対象人口	42434人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
2. 市区町村名	浜松市	4. 建物設置年月日	昭和49年2月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	15台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (〇〇地区まちづくり協議会) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (浜松市)				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1456人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1542人 (北部ジュニア公民館・北部協働センターまつり・一斉清掃・体育館一般開放)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 65415人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 68,413人		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 30人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人    職員のうち社会教育士の数 0人)	合計 37人			
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (浜松市社会教育委員会)				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (認知症を正しく知ろうコーナーの常設(地域包括支援センター高丘等との連携事業))	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民サービスセンター、体育館) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (77の地域活動団体を抱え、子供、障がい者、高齢者と幅広い利用者を有している。)				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (萩丘地区自治会連合会、葵・高丘地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会、北部生涯学習ボランティアの会、北部協働センター地域活動団体、北図書館、浜松磐田信用金庫あずきもち支店、地域包括支援センター高丘 他)				

## 浜松市北部協働センター

OPEN 8:30~21:30

TEL 053-436-5931

H P <https://city.hamamatsu.shizuoka.jp/c-hokubu/hokubu.html>

SNS





## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

「北部ジュニア公民館」・・・地域には、幅広い世代、多国籍の住民が住んでおり、子供の人数が多い。しかし、中学生の居場所があまりなかった。そこで学校・地域・行政が一体となり、イベントの企画や運営を中学生ボランティアに任せることで、地域のボランティア育成、中学生の健全育成の重要な場となり、中学生の居場所作りにもつながると考え、活動をスタートさせた。

「北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）」・・・コロナ禍でも安全・安心な環境で、地域で積極的に活動する団体の成果を発表することができるように、発表を映像化（デジタル化）し、多くの住民に視聴してもらえるようにした。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

### 1. 北部ジュニア公民館

（1）**地域ボランティア育成の場と健全育成の場** 中学生ボランティアが中心となって、高校生、大学生、社会人のボランティア（北部生涯学習ボランティアの会）と協力しながら、企画や運営（リーダー決め、仕事の割り振り等）をしている。

（2）**記録集の作成** 活動を後輩に引き継いでいくため、毎年の活動の振り返りや改善点を記録集にまとめている。その記録集は20年分にも及ぶ。

（3）**オンラインイベントに関する技術的指導** コロナ禍でも開催を実現させるため、動画の撮影・編集・配信等の技術を中学生ボランティアに指導しオンラインで開催を実現させた。



初のオンライン開催となった  
第20回北部ジュニア公民館

### 2. 北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）

（1）**地域人材の活用** 活動団体の発表・活動PR動画等の撮影や編集を業者に依頼するのではなく、“地域の力”を活かし、地域住民の協力を得て、VTRにまとめ、協働センターまつり当日に放映した。当日の様子も撮影し、後日協働センター内で放映した。

（2）**団体同士の交流と新たな形で協働センターまつりへの参加意識づくり** 動画等の撮影や編集等デジタル化を通じ、地域活動団体同士の交流が生まれ、協働センターまつりへの積極的な関わりにもつながった。



北部協働センターまつり  
当日の様子を撮影

## 3. 取組による成果や効果

1. **ボランティア活動しやすい環境・体制** 来場した小学生が中学生ボランティアに対し憧れの念を抱き、将来の中学生ボランティアが自然に育成されている。ボランティア活動を通しての人間形成、自然にボランティアができる環境・体制ができている。（第20回までのボランティア延べ人数・・・中学生1566人、高校生・専門学生・大学生315人、成人1393人）

2. **協働センターが地域の学びの場・居場所** 幅広い年代、多国籍の住民が集うことで、異世代の交流と地域コミュニケーションの活性化につながり、気軽に足を運べる場、住民のよどころとなっている。

3. **地域活動団体の活性化** 活動内容を映像化したことから、団体の活動が明確になり、新規参加者や問合せが急増した。



憧れの中学生ボランティアのお姉さん

## 4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

★北部ジュニア公民館では、ボランティア参加者からの改善点・反省点・意見等を**イベント記録集**（中学生ボランティア記録集）に収録。取組の検証・改善を行い、次年度につなげている。記録集の作成は、**中学生ボランティアが中心となり編集**している。

★北部デジタル協働センターまつり（協働センターまつり）では、各参加団体や来場者へ**アンケートを実施**。多様な意見等を踏まえながら、**北部協働センター運営委員会**で報告、検証・改善を行っている。

## 5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

★**Connecting People** 協働センターは、人が集い、つながる場所であれ！

★**やらまいか** ～新たな学び・チャレンジを応援しよう～

★良いアイデアは、“**雑談**”から始まる！



チャレンジを応援「ダイエット講座」

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

1. 異世代の交流により、「**豊かな心**」を育むことで、**地域の輪**を広げていく。

2. “**地域を大切に**する心”を持つ子供の育成

3. 伝統の継承と新たな挑戦 ～デジタル化～ 「**不易と流行の見極め**」



子供茶道教室から生まれた異世代交流

<b>施設名</b>	～地域も野菜も、育ててつながる居場所づくり～浜松市高台協働センター		<b>所在地</b>	浜松市中区和合町58番地の30	SNS等のQRコード (なければ削除)
			<b>電話番号</b>	053-472-1468	
<b>所管部署</b>	浜松市中区まちづくり推進課	<b>HP</b>	<a href="https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp">https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp</a>		
			<b>SNS</b>		

○施設外観・事業風景



○施設概要

施設の沿革・年表		施設の運営で大切にしている考えなど (PRポイント等を含む)	
昭和63年4月	高台公民館設立	T:つながる A:あなたと地域 K:気軽に A:遊びにおいて D:どんな時でも A:アットホームな I: 居場所づくり そのために・・・世代間の交流を促進し、住民の連帯感・地域 コミュニティ意識の向上を図るとともに、生涯学習の充実を図 ります。 ・地域の特性を生かしたバラエティに富んだ講座の企画・運 営 ・地域の各種団体・ボランティア団体との連携 ・地域の小・中学校との連携 ・地域住民が参加したくなるイベントの定期的な開催	
平成25年4月	高台協働センターに名称変更		
平成31年3月	施設UD化		
<b>市町人口</b>	793,606	<b>施設対象人口</b>	32,317
<b>建物設置年月日</b>	昭和63年4月1日	<b>開館日数 (前年度実績)</b>	359日
<b>運営主体</b>	<input type="checkbox"/> 市町教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 (    ○○協議会    ) <input checked="" type="checkbox"/> 市町首長部局 <input type="checkbox"/> その他 (    )		
<b>職員数</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 専任    2人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤    8人    合計    25人 <input type="checkbox"/> 兼任    0人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者    15人		
<b>講座等開催数 (前年度実績)</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座    67回 <input checked="" type="checkbox"/> その他    11回    合計    78回 <input type="checkbox"/> 講演会・展示会等    0回		
<b>来館者数 (前年度実績)</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座    937人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館・サークル活動    79313人    合計    80,870 <input type="checkbox"/> 講演会・展示会等    0人 <input checked="" type="checkbox"/> その他    620人		

○事業等の実施状況(『特色ある活動』であげた事業以外で2つ)

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響あり

区分	事業名	開催回数	延参加者数	区分	事業名	開催回数	延参加者数
<input checked="" type="checkbox"/> 主催 <input type="checkbox"/> 共催	高台地域学習支援ボランティア事業	6回	43人	<input checked="" type="checkbox"/> 主催 <input type="checkbox"/> 共催	自遊ひろば高台	9回	327人
事業概要(共催先も記載)				事業概要(共催先も記載)			
地域に居場所を求める声が寄せられ、子供たちを地域で育てる手伝いをしたいと考えるボランティアが集まり「イズミルラックスラボ」を結成し、居場所づくりの方法の一つとして、学習支援活動を開始した。令和4年度よりボランティア団体が独自運営しながら毎月開催している。				新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、地域のつながりが希薄化している現状を踏まえ、協働センターをとり出して地域の公園(和地山公園)でワークショップを開催し、新たな住民交流の場とした。令和4年度も引き続き実施し、延べ327人の参加があった。			



## 施設名

～地域も野菜も、育ててつながる居場所づくり～浜松市高台協働センター

### ○特色ある事業

#### 1. 事業名

育ててつながる!秘密の畑でコミュニティづくり

#### 2. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

・新型コロナウイルスの影響で学校行事や子供会の活動が中止となり、特に体験活動が減ってしまった。  
 ・協働センターの裏に畑があるが、過去数年活用されていなかった。  
 Solution! > 感染リスクが屋内より減る屋外での事業に着目し、活用されていなかった畑事業を復活させることとした。作物を育て収穫するWithコロナのコミュニティ活動を展開することで、人と地域が繋がる「居場所」とした。

#### 3. 取組内容(力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など)

イベントが主ではなく、一緒に作物を「育てる」「楽しむ」「交流する」循環型体験活動を実施し、作物を育てながら生まれるコミュニティを大切とする。畑を耕すところからボランティアと子供たちが一緒にいき、栽培ノウハウを地域へ還元することで持続可能な運営を目指す。

- ①「秘密の畑で芋ほり会」(令和2年度より事業開始)
- ②「体験!いずみっこ講座!!」(令和3年6月5日～12月5日) 泉小学校との連携事業。
- ③「イミユルトラキッズラボ」(令和3年6月19日～令和4年1月15日) 学習支援の参加者(小学生)を増やす目的として、学習会の後に畑の管理、草花の観察会、収穫会を開催。

#### 4. 参加対象、参加者数(前年度実績)

参加対象	地域小学生とご家族	参加者数	57人
------	-----------	------	-----

#### 5. 取組による成果や効果

・畑管理のために地域住民が定期的かつ気軽に協働センターに足を運んでもらえるようになったことで、協働センターが身近なところとなり、「居場所づくり」にもなった。また、これまで来館の少なかったファミリー層(特に父親たち)も来るようになった。また、「自分で育てて、食べる」体験を通して、食育にもつながった。  
 ・協働センターとの関係性を深めるきっかけ作りとなったことで、協働センターの講座やイベントへの関心が高まった。

#### 6. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・コロナ禍においても屋外であれば、安心して活動を展開することができる。  
 ・収穫が目的ではなく、作物を育てながら生まれるコミュニケーションが重要である。  
 ・協働センターが主となって企画から運営まですべてを実施するのではなく、地域やボランティア団体との協働作業とすることで、今後も継続できる仕組み作りができた。



#### 7. 今後の目標・展開、次の仕掛け・ビジョン

本市の特徴としてブラジルにルーツのある方が多いことから、ブラジルの食文化を学ぶため、外のおもになるキャッサバを育てようと、ブラジル人農家と浜松学院大学に声をかけ、協力してもらえることとなった。そこで、農家×大学×協働センターで協働し、栽培を進めている。他国の食文化に触れ、学びや理解を深めるとともに、国籍に関係なく地域活動にも参加してもらえるような環境を地域で醸成したい。畑の活用を多文化交流のきっかけとし、さらに多くの方に協働センター運営に携わってもらう。

## 別紙様式

# 子供を育む地域活動団体推薦書

## 1 団体名等

ふりがな 団体名	ほうじん こそだてしえん かい NPO法人 子育て支援の会
ふりがな 代表者氏名	にはし けいこ 二橋 桂子
住所 電話番号	〒430-0841 浜松市南区寺脇町 425 053-441-6323

## 2 推薦理由（5行程度で簡潔に記入）

NPO法人子育て支援の会は、今年度で設立22年目を迎え、子どもたちの学びや育ちを支えるため、子育て支援や青少年の人材育成など、幅広いボランティア活動を続け、多岐にわたって地域活動に貢献している。近年は「中高生地域活動リーダー養成講座」に力を注ぎ、自分・人（家庭）・地域を愛する視点を持った大人を育てたいという思いで事業に取り組み、中高生の成長過程における自立に向けた心構えと準備を手助けしていることから、地域活性化にも大きく繋がっている。

## 3 活動内容等

(1) 事業の目的 及び活動の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの教育は親と共に地域全体でサポートする。</li> <li>○ 貧困はお互いの理解を深めて信頼関係を確立する。</li> <li>○ すべての人が自分の役割に気づき『あなたがいてよかった』と言われる自分の居場所づくりをする。</li> </ul> <p>「中高生地域活動リーダー養成講座」では、青少年が地域の各世代の人々と一緒に地域活動の体験学習ボランティアを行い、人と関わり合う能力やコミュニケーション能力を高め、地域活動の楽しさを知り、故郷への愛着を学ぶことを目的として活動している。</p>
(2) 活動体制等 (連携する団体、 子供・地域住民 等の参加状況、 活動年数等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携する団体…市内小学校、中学校、高等学校、地区社会福祉協議会、白脇地区自治会、青少年育成会議</li> <li>・ R3参加状況…・地域活動リーダー養成講座 66人（大人36人、子供30人） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ きらら子ども食堂 600人（大人300人、子供300人）</li> <li>・ 素敵なパパママ未来体験 242人（大人12人、子供230人）</li> </ul> </li> <li>・ 平成13年から活動を開始し、今年で22年目の実施となる。</li> </ul>
(3) 活動内容及 び成果	<p>少年の人材育成として「中高生地域活動リーダー養成講座」（静岡県青少年指導者初級認定事業）を開催し、地域活動の体験ボランティアを実施することで、地域活動におけるリーダーとしての資質や専門的な能力を高めた。また、様々な世代の人と一緒にボランティアを行うことで、人と関わり合う能力やコミュニケーション能力を高め、地域活動の楽しさを知ることができた。また「すてきなパパママ未来体験事業」では、小学生を対象に赤ちゃんに触れ合う体験をすることで、生命の誕生と成長、一人ひとりの命の大切さを学んだ。</p> <p>子育て支援事業として「子ども食堂きらら」を定期的で開催し、地域のボランティアと一緒に食事を作り提供するすることで、地域住民とコミュニケーションを図る場となるだけでなく、地域住民の『子どもの教育を親と共に地域全体でサポートする意識』を高めている。</p>
(4) その他 特記事項	

## 地域訪問記

### たいさ がき 堆砂垣づくりは人づくり ~中高生地域リーダー養成講座~

#### NPO法人 子育て支援の会 (浜松市)

日本三大砂丘の一つである中田島砂丘は地域の誇り・故郷・財産の一つでもある、遠州灘を間近に望む浜松市南区白脇地区を拠点に活動する「NPO法人子育て支援の会」を紹介する。

#### 子育て支援と青少年育成は地域の役割

理事長の二橋桂子さんは、胆っ玉母さんのような懐の深さを感じさせる方で、「周囲の大人が地に足をつけて、子どもを暖かく見守り育てるのが地域の役割」と力強く語る。会では、多岐に渡る子育て支援と青少年育成に関わる事業を展開している。その中でも毎年行う14日間の「中高生地域活動リーダー養成講座」は特筆すべきものがある。ボランティアとしての心得、乳児や高齢者とのふれあい、地域住民との共同作業など、人と関わり合う能力や人間関係を育て、地域活動の楽しさを知り故郷への愛着を学ぶのである。

#### 堆砂垣設置プロジェクトに参加

中田島砂丘を保全するために10年前から活動している地元の「海岸浸食災害より住民を守る会」が主催する「堆砂垣設置プロジェクト」を協働で行っている。このプロジェクトは小中高生も含めた一般市民500人が参加する一大事業で、27年度は10月11日～25日に中田島砂丘の堆砂垣の設置作業を行った。



上:準備の様子 下:受講生はオレンジ色のビブスを羽織り活動

受講生はプロジェクトの運営を学習し、堆砂垣に必要な竹などの資材を事前に準備。当日は開会式の司会や受付など、参加中学校のリーダーとして率先



今年は、80mの堆砂垣を8本設置した

して汗を流した。多くの人を動かすために必要なことは何か?と地域の大人の後ろ姿を見ながら学ぶ。自然環境を守るために必要なことは、力を合わせ協力すること。一人ではできないことも協力し合えば実を結ぶ。それには言動に責任を持ち、人から信頼されることであると感じたようだ。

#### 地域の将来を見据える



各講座を通して地域の苦労や優しさを知る。受け入れ団体の皆様に感謝

こうした実体験の積み重ねが、子どもたちの未来予想図の大きなコンパスになっていることは間違いない。実際、養成講座を修了した高校生は環境問題に興味を持ち、防潮堤の植樹作業を行っている。

中高生は鍛えられることによって彼ら自身が自分の存在意義と役割を見出し、良き地域人として地域に根ざした人材になるであろうことが想像される取り組みである。

◇代表：二橋桂子さん (問合せ先・053-441-6323)

【情報提供：神谷千賀子】



レポート：中村弘美 編集委員





# 地域のわ

NPO法人子育て支援の会

声をとくさん聞けました。二酸化炭素を増やさないこと。地球環境を守りたいと頼もしい

「地球温暖化防止対策として、二酸化炭素を増やさないこと」

これから社会の主役となる君たちへ 環境・エネルギー教室

## 省エネライフで未来を守ろう

貧困、紛争、気候変動、資源の枯渇など数多くの課題に直面している今、人類がこの世界で暮らし続けるために「持続可能な世界にするために」「自分たちができることを学ぼう」とNPO法人子育て支援の会(南区寺脇町)が先月開催した「環境・エネルギー教室」。地域活動リーダー養成講座を受講中の中学生たちが参加して、SDGsの目標7にある「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」をテーマに学習しました。講師は中部電力職員。

発電の種類や仕組み、化石燃料の石炭を実際に触ったり、電気が送られる電線も電圧によって太さが違うことを知りました。家電で一番消費電力が高いのは冷蔵庫。節電のため、詰め過ぎや無駄な開閉はしないこと。白熱電球とLED電球の手回し発電実験で使用エネルギーを比較。白熱20Wは力強く回さないと点灯しませんが、2.2WのLEDは軽く回すだけで発電、省エネだと実感しました。

教室を終えて、皆様々に刺激を受けたようです。青島さん(中1)は「待機電力も減らせるように工夫したい」。高須さん(中3)は「エネルギー資源にも限りあることを知った。電気がないと生活できない、無駄なエネルギーを使わないことが大切」。二橋さん(中3)は「地球温暖化防止対策として、二酸化炭素を増やさないこと」。



「石炭軽いね」



### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs(エス ディー ジーズ)『持続可能な開発目標』は未来まで世界中の人が暮らしやすくなるための取り組み。2015年国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」があり、全国市内各地でSDGsの達成に向けた取り組みが行われています。

Sustainable Development Goals



地域活動リーダー養成講座を受講する中高生が「社会を明るくする運動」の一環として、地域のために働く白脇協働センター、白脇交番、消防局南消防署白脇出張所の職員に感謝を込めて、手作りのおはぎをプレゼントしました。

寺脇町公民館に中高生8名と地域ボランティアが集まり、地元の白脇田んぼアートの収穫したもち米を使って、おはぎ作りをしました。寄付されたサツマイモを使った茶巾しほりも添えました。

出来上がったおはぎを直接職員に手渡しに行き、それぞれの仕事の内容や取り組みなどを聞きました。「安心できる地域になるように日々努力していることが分かった」「話を聞いて地域を支えてくれていることを知り感謝したいと思った」「職員の方が喜んでおはぎを受け取ってくれたのが嬉しかった」と笑顔でした。

NPO法人子育て支援の会  
静岡県青少年指導者級別認定事業




## 『命の誕生と成長』を学ぶ

赤ちゃんとのふれあいが優しい心を育てます。人間ってすばらしい!

白協協働センター 学習成果活用事業

# すてきなパパママ未来体験

NPO法人 子育て支援の会

子どもたちは風船を膨らませて可愛い顔を描き、それをエプロンの中に入れて大きなお腹の妊婦体験。6年生は3キロの重さを付けて妊婦さんを疑似体験しました。「座るのも大変でしょう」と二橋さん。

絵本『いのちのまつり』を読んで「命はお父さんお母さんから生まれ、お父さんお母さんもおじいさんおばあさんから生まれた。10代前だと1024人のご先祖様から命はつながっているの。一人でもかいたら今いないかもしれないね」と優しく語りかけます。お腹の中で死んでしまう透明な命もあることも知り驚きました。

赤ちゃんとふれあいながら、お母さんたちと交流。生後3か月のふみくんがお腹にいた時の写真を見せてもらい、ふみくんと見比べて「温かい」「可愛い」とみんな表情が優しくなります。たいちゃんとなみちゃんのお母さんからは、生まれた時のことや夜は何度も起きてミルクやオムツ変えて寝不足だったと教えてもらいました。

「お母さんすごい」「自分の命の大切さを知った」と子どもたち。貴重な体験ができました。



小学1年から6年の12名と、赤ちゃん親子3組参加。講師は、子育て支援の会の二橋桂子さん。






地域のわ



## 地域のわ

ファーマーズマーケット白協店と地域ボランティアが応援  
NPO法人子育て支援の会 こども食堂きらら

### お財布と相談しながら はじめてのお買い物



南区  
寺脇町



ファーマーズマーケットのお米マスターから白米と玄米を見せてもらい、お米クイズを交えてお米について楽しく教えてもらいました。

お問合せ NPO法人子育て支援の会  
浜松市南区寺脇町425  
電話 441-6323  
<https://kosodateshien.web.fc2.com/>

寺脇町公民館を拠点に活動している「こども食堂きらら」で初企画、買い物体験が行われました。地域の店が協力。付き添いボランティアと一緒に、8人の子どもたちが挑戦しました。

買い物カゴを持っていざ店内へ。母の日のカーネーションを選ぶ子もいれば、頼まれたトマトと自分用にゼリーを買う子もいます。祖母からミカンを頼まれた子は「種類が多くてびっくり。見て悩んで美味しそうなものを選びました」と笑顔。レジに並んでお金を払うまでドキドキ。「オーバーしないように選ぶのが面白かった」「いつも家族のために買いた物をしてくれる気持ちがいっぱいだった」と子どもたち。いい経験になったようです。

主催のNPO法人子育て支援の会代表の二橋さんは「予算内で、家族から頼まれたものや欲しいものを、お金の計算しながら買物ががんばりました」とこやか。買い物体験の後には、こども食堂でおにぎりを握ってお弁当にして持ち帰りました。

